

人物紹介コーナー②

真摯に横浜の歴史を追求する郷土史研究者 田村泰治氏

—根岸外国人墓地解明にも大きな功績—



1997年退職当時の田村泰治氏

田村泰治（たむらやすじ）氏は、昭和11（1936）年、横浜市中区石川町に生まれ、現在は西区に在住されている。昭和34年矢向小学校から教師をはじめ、その後、中学校の社会科の先生として長年勤め、校長職勤務を経て退職された。教師時代から、そして退職後も歴史の講師などをしながらも、ずっと郷土史を追求し続けてこられた。田村氏は自身の論文集「史論集 郷土横浜を拓く」のなかで、ご自分と郷土史研究を振り返ってみて、「自分は『横浜生まれの横浜育ち』この言に尽きると思います。私は愛する横浜に関係する歴史関係の論文、それも日の当たらなかつた部分に目が行っていただけに気がつきました。」と述べられていた。（文渡辺登志子）

根岸外国人墓地のこと

横浜山手にある外国人墓地は日の当たる高台にあり、海も近く異国情緒漂う地域一帯のなか、観光地としても有名であり、週末にはボランティアガイドが待機している。横浜にはもう一つ外国人墓地、JR山手駅近くにある市営根岸外国人墓地があるが、こちらは日の当たらない山の斜面にあり、夏場は草茫茫



根岸外国人墓地内にある慰霊碑「天使の翼」。1999年、山手ライオンズクラブ30周年記念として建立された。「片翼の天使」とも言われている。

となり、道路からも墓石が見えるが通行人が目を留めることもない。私は8年位前にすぐこの近くに3年間ほど住んでいた。横浜の歴史に興味を持ち始めた頃で、意を決して1人で訪ねてみた。入口に大きな説明板があつて、そこには「仲尾台中学校の先生と生徒が調査研究を行なつた」と書いてあつたのを記憶している。仲尾台中学は山手駅から見上げる高台にあり、そこから下に向かう斜面に墓地が広がっている。中に入つてみたものの、誰一人おらず、怖くなって半分ほど見回つて、帰つて来てしまった。その後、ここには関東大震災でなくなった外国人、著名人も眠っているが、戦後、進駐軍の米兵と日本人女性との間に生まれた嬰児が何百体も埋葬されているなどの情報も得て、2度ほど歴史仲間とともに散策したことがあつた。今はどうなつているか分からないが、3年ほど前の最後に行つた時には、例の説明板は日焼け・風雨のためかすっかり読めなくなつていた。

今回、この仲間紹介ページに横浜西区郷土史研究会を取り上げさせていただくにあたり、田村氏から送られてきた今年5月発行の「史論集 III 郷土横浜を拓く」を眺めていた時、最初に発行した史論集には「もう一つの横浜外国人墓地 ～横浜市営根岸外国人墓地に関する考察～」

があることを知り、あの説明板にあつた仲尾台中学校の先生とは田村泰治氏であつたと気がついたのである。

田村氏は高校生の時から郷土史に関心を持ち、市立図書館の「横浜郷土研究会」の先輩の方々に教えを受け、大学も史学科を専攻した。（「横浜郷土研究会」は本ページにて、紹介コーナー No. 11-① 2019. 3. 29 掲載、No. 11-② 2019. 6. 28 掲載 本サイトのアーカイブページに収納）

共進中学校教師時代には「郷土史研究クラブ」をつくり、歴史好きの生徒たちの調査研究を指導、遺跡発掘調査にも参加した。転勤した仲尾台中学校では、「横浜市営根岸外国人墓地」を歴史研究部員の生徒と2年余にわたる研究調査を実施した。夏の蚊や虫、暑さに苦しみながら、**墓標の一つ一つを記録し、これを確認、図面の作成、名簿の作成を進めた。地味で暗い仕事を皆よく努力して完成させたとの自負がある。**

根岸外国人墓地は、これまで「市史稿政治編」から**明治 35 年に用地が認可されたとなっていたが、田村氏が市図書館にある「太政類典」にある記述を見つけたことで、20 年以上前の明治 13 年開設認可であった、と正したのだった。**この調査研究には横浜市の部局・施設の協力や山手ライオンズクラブの援助が得られたことが、その後の**慰霊碑の建立、『墓前祭』の実施**やマスコミによる根岸外国人墓地の広報につながったのであり、そうしたご尽力をいただいた方々には大変感謝しているという。その後もこの墓地のことがマスコミ等に取り上げられるたびに、各方面から問い合わせや新たな取材の申し込みもあり、研究者としては、それが大変励みになっているようだ。

「**根岸外国人墓地**」の大調査、そして今回の「**久保山共葬墓地**」の大調査、「私は、お墓ばかり関わっているんですよ。」と田村氏は自嘲気味に言われたが、お墓は人の歴史のシンボルのようなものなのだから、歴史家はお墓に関わらざるを得ないと思う。今回の久保山墓地はあまりにも大規模で、問題もいろいろあって、ご苦労も多いだろうと推察するが、田村氏は淡々としており、やるべきことを真面目にやっているという姿勢が貫かれている。

次ページの新聞記事は

「史論集 郷土横浜を拓く」から転載した。

記事は朝日新聞（昭和 60 年 10 月掲載）、写真は田村氏の撮影によるもの。

(朝日新聞)

第3種郵便物認可

根岸外人墓地の設置 22年も吉かった

中学教諭が新事実を発見

「もう一つの外人墓地」横浜
市営根岸外国人
墓地(同市中区
仲尾台)ができたのはこれまで
で、「市史稿政治編」から明治
三十五年とされてきたが、墓地
と隣り合った市立仲尾台中学校
の田村泰治教諭(右)が写真から
の調べで、同十三年だと分か
り、十一月二日、同墓地で行わ



る同校歴史研究部の発表会で
報告される。田村教諭は「二十
二年も古いとは……。新しい事
実が分かり、これからも調べま
す」と話している。

郷土史家の田村教諭は、これ
まで中区史や市史などをまとめ
てきた。根岸外国
人墓地に興味を持
ったのは十三年
前、同校に転動し
てから。確かな記
録がなく、墓地の
管理事務所から埋
葬者名簿の写しを
借り、顧問をして
いる歴史研究部の
生徒と一緒に今年
一月から本格的に
調査。

田村教諭の話で

は、これまで、墓地は明治三十
五年の「御用地下付」による編
入(市史稿政治編)から始ま
り、墓地になったのは同三十九
年とされてきた。だが、市の図
書館で、「太政類典」を調べた
ところ、同十三年九月、県が内
務省に出したうかがいに「横浜

の外国人墓地(山手)が民家に

接近し、疾病が伝染する恐れが
あり、手狭なので、根岸村字中



尾(現在の仲尾台)に墓地を作
りたい。ついでには資金援助を
とあった。さらに「同月下旬、内
務省が県の要請を受け、墓地用
地を買った」と記されていた。

田村教諭は「根岸に墓地が生
まれたいきさつはこれではつき
りしたと、市衛生局も「全く
知らなかった事実」と言う。
一日は、報告の後、山手に住
む六十八・九十一歳の外国人四
人に来てもらい、外国人から見
た当時の横浜の様子を聞く。



幼くして逝った嬰兒
800余名が眠っている



外国人墓地

歴史を志す者にとって大切なこと

田村氏の書いた史論集 II の中に「横浜掃部山公園 井伊直弼銅像建立をめぐる紛争と事件の顛末」という論稿がある。かの有名な歴史小説家吉川英治が横浜のことを書いた随筆や小説に「井伊直弼銅像の首が切り落とされた」とあって、それが巷にまことしやかに伝わっていた。横浜生まれ横浜育ちの田村氏にとっては初耳のことで、そんな話があったのなら知らないはずがなかった。追求した結果、井伊直弼銅像の首切りをもくろむ輩がいたことは確かだったが、犯行に及ぶことなく逮捕されていた。その事実を出版社に訴え、訂正を要望したが、受け入れられることなく、引用したガイドブックは30年ちかく、この銅像の首切り問題を世間に開示して事実として主張したのである。多くの読者に間違っただけの事実が正しい事実として記憶されることは歴史関係者にとっては一番危惧するところであるという。



井伊直弼像
首切りはなかった。

田村氏は言う、「歴史は真実を、事実を、極めることが第一で、史実に忠実でなければならない。間違いを避けるためには、ガイドブックであれ、パンフレットであれ、事実確認を行い、出典にあたり、自分の手でしっかり事実を確かめて引用すべきであろう。そして引用文献を明記すべきである。責任をもって新しい情報、史実に沿った内容を提供しなければならないと考える。」と。真摯に歴史に向き合う田村氏にとって、この件で味わった、事実を捻じ曲げたままの商業優先的な扱いには強い義憤を感じ、許しがたいことだったに違いない。ともすると、歴史を発信する立場にあるものは、面白くしたい、読者に受けたいという思いが間違っただけの方向へ向かう可能性が無きにしも非ずなので、心に刻み付けておかなければならないと思った次第である。

「田村さんは横浜の生き字引ですよ。」とお仲間から言われる田村氏、これからもご健康に留意され、益々横浜の歴史に取り組み、後に続く者たちにその功績を伝えていってくださることを願っています。



田村氏の史論集「郷土横浜を拓く」I～III。非売品。市の図書館で見ることができる。

田村泰治氏の「史論集 郷土横浜を拓く」

史論集 I 掲載論文目録 平成9年3月 発刊分

1. 後北条の関東支配 ～戦国時代のよこはま～
2. 武州久良岐郡蒔田村の研究 ～享保五年村差出之控より～
3. 横浜軍陣病院 ～戊辰戦争と横浜～
4. 横浜軍陣病院とウィリアム・ウィルス ～西洋外科医学指導者と横浜・鹿児島～
5. 山路愛山論 ～民間史論家として～
6. もう一つの横浜外国人墓地 ～横浜市営根岸外国人墓地に関する考察～
7. 戦後横浜の庶民史 ～占領・接收下の生活～
8. 昭和20年5月29日 横浜大空襲における蒔田尋常高等小学校罹災記録と教師の手記
9. 横浜金沢における被差別部落の歴史的成立過程の一考察

史論集 II 掲載論文目録 平成27年4月 発刊分

1. 神奈川奉行所 戸部役所のしくみとその働き
 2. 横浜掃部山公園 井伊直弼銅像建立をめぐる紛争と事件の顛末
 3. 「唐人お吉」こと、斎藤きちとよこはま ～開港にかかわる裏面史として～
 4. 横浜の新田開発 ～吉田新田から袖ヶ浦・帷子川の新田開発～
 5. 横浜開港と横浜道 ～横浜道が果たした日本の近代化～
 6. 横浜人物伝
 1. 洋学の先駆者 佐久間象山
 2. 開国推進者 岩瀬忠震とよこはま
 3. 横浜起業家 高島嘉右衛門
 4. 横浜商人 中居屋重兵衛と尊王思想
 5. J・C・ヘボン博士とよこはま
 6. 近代水道の創設者 H・S・パーマー
 7. 井伊直弼銅像建立と相馬永胤
 8. 横浜商人を育てた 美澤 進
 9. 更生保護に尽力した 有馬四郎助
 10. 困窮児童救済に尽くした 木村担平
 11. 街の慈善家 赤帽子三楽
 12. 鉄道建設技師 エドモンド・モレル
 13. 起業家 写真家 下岡蓮杖と横浜
 7. 横浜三大紛争と民権ジャーナリズムの進展
～ガス局事件を中心とした横浜市民意識の高揚～
 8. 横浜における食品市場形成と発展
 9. 世界を席卷した横浜麻真田繊維工業の盛衰
- 資料 横浜西区域の進出事業所年表

史論集 III 掲載論文目録 令和2年4月 発刊分

1. 吉田新田開発者 吉田家と常清寺・清正公堂
2. 横浜商人 原富太郎と富岡製糸場
3. 横浜商人 茂木惣兵衛と野澤家 ～横浜経済界を確立した一人として～
4. 横浜商人育成をめざした小野光景 ～横浜実業学校の進展～
5. 横浜の財閥 浅野総一郎と横浜
6. 横浜西区戸部本町紅梅通り「手書き地図」発見から
7. 居留地横浜における風俗是正の歩み 街の風紀是正 ー裸体・混浴湯屋を通してー
8. 横浜における女子高等教育の進展 ー横浜ミッションスクールー
9. 関東大震災と横浜
10. 横浜大空襲と市民生活 ～横浜における太平洋戦争の悲劇～
11. 横浜大名 米倉氏と六浦金沢藩
12. 横浜北部地域の城址・砦跡について

共同研究 横浜久保山の寺町の研究 ——横浜市営久保山共葬墓地と関わって——

監修 田村 泰治

編纂 横浜西区郷土史研究会